

研究区分	教員特別研究推進（国際共同研究・国際交流の促進）
------	--------------------------

研究テーマ	アルテベルデ応用科学大学における欧州連合の高等教育機関の共同教育モデル ：多職種緩和ケア・終末期ケアプログラムへの参画				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	竹熊カツマタ 麻子
	研究協力者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	荒井 孝子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	竹熊カツマタ 麻子

講演題目
アルテベルデ応用科学大学における欧州連合の高等教育機関の共同教育モデル ：多職種緩和ケア・終末期ケアプログラムへの参画
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究概要】 本研究の目的は、①本学の協定校であるベルギー王国のアルテベルデ応用科学大学が参画する欧州連合の高等教育機関による共同教育プログラム「Interdisciplinary Programme on Palliative and End of Life Care」に、アジア圏の協定校として参加し、国際的な教育・研究交流を推進すること、②欧州における医療従事者の基礎教育およびリカレント教育の実践を学び、本学の学生・大学院生・教員を対象とした短期研修プログラムとしての有用性を評価することである。 【成果】 2026年1月26日から30日にかけて開催された「Interdisciplinary Programme on Palliative and End of Life Care」に参加し、日本における高齢者医療および終末期ケアの現状と課題について発表を行った。また、欧州各国から参加した学生、教員、医療専門職との意見交換を通じて、緩和ケアおよび終末期ケアに関する国際的な視点を深める機会を得た。 プログラムでは、欧州各国が有する歴史的背景、宗教観、法制度、医療提供体制の違いが終末期ケアの実践にどのような影響を与えているかについて学ぶことができた。特に、生命の終末期における意思決定や安楽死制度に関する議論が活発に行われており、未成年者や精神疾患を有する人々への適用を含む制度運用について、当事者家族や医療従事者から直接話を聞く機会を得たことは、日本国内では得難い貴重な学びであった。 さらに、終末期ケアに関連した市民活動やコミュニティによる支援の実践についても紹介され、人生の意味や尊厳、生と死のあり方について多角的に考察する機会となった。 本学からは看護学研究科長も参加し、本プログラムは大学院生および教員にとっても有意義な学修機会となるとの評価を得た。 【今後の展望】 アルテベルデ応用科学大学とは大学間協定を締結しており、本学短期大学部歯科衛生学科においても積極的な学術交流が進められている。今後は看護学部および歯科衛生学科が連携し、学生・大学院生・教員の相互交流を推進するとともに、教育・研究活動における国際協力を一層発展させていくことが期待される。また、本プログラムへの継続的な参加を通じて、終末期ケアおよび緩和ケアに関する国際的視野を有する人材育成に貢献していきたい。